

1

言語活動を通して、内容を確実に読み取る

新

新しい学習指導要領では、国語科のみならず各教科等においても言語活動の充実が謳われている。ここで気を付けるべきは、読み取りと活動とが分断されないようにすることである。

本教材で考えられる言語活動に、「リーフレット作り(※)がある。「言語活動を通す」ということは、「リーフレットを作りながら読み取っていく」ということである。初めに学級全体で読み取りをすべて行った後に、リーフレットを作るというのでは意味がない。子どもの側からすれば楽しくリーフレットを作っているのだが、実は、それが文章を読み取っていることになっている、そんな言語活動を目指したい。

言語活動を通して付ける力

「ありの行列」(三上) 新しい指導を考える会

2

語を語彙として意識させることで、語彙力を付ける

新

新しい学習指導要領では、すべての教科・領域等を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得が強調されている。国語科においては、その一つに「語彙力」が挙げられるだろう。

ここで「語彙」とは、何らかの観点によってグルーピングされた言葉の集合体であることを指す。単独の語を指しているのではないのである。本教材では、説明的文章を読むための語彙として、接続語を取り上げてみよう。

本教材は、短い文章の中に多くの接続語が登場する。それらを「接続語」とい

に付けていくことにつながるのである。

3

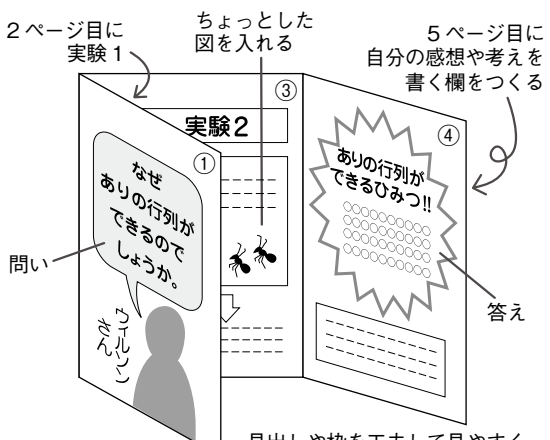
文章を読んでまとめたものを交流する場を設定する

新

新しい学習指導要領の特徴の一つに、学習過程として「交流」が位置づけられた点が挙げられる。互いの感じ方や考え方の違いに気付き、自分の考えを深めていくものである。

本教材では学習のまとめとして、各自の作ったリーフレットを互いに読み合う場を設定するとよいだろう。リーフレットの中には、文章を読むことでもった自分の感想や考えたことを、記述するスペースを設けておきたい。その際は、文章の内容を要約した部分と自分の考えとが混同しないように、きちんと書き分けることも指導する必要がある。文章を読んで自分

(※)リーフレットの例
八つ切り画用紙を三つ折りにして作る。



- ・見出しや枠を工夫して見やすく。
- ・文は短く。(要約意識)

特集

これからの指導 移行期に意識すること